

子宮頸がんワクチン 中学生が重い副反応

杉並区、補償へ

子宮頸がんワクチン「サーバリックス」を接種した東京都杉並区の女子中学生（14）が、歩行障害などの重い症状が出て、1年3カ月にわたり通学できない状況だったことが、7日の区議会でも明らかになった。無料接種を行った区は「接種の副反応」と認め、補償する方針だ。補償額は未定。

サーバリックスは3回の接種が必要。母親によると、女子中学生は12歳だった。2011年10月に区内の医療機関で2回目の接種をした。その後、接種した左腕がしびれ、腫れて痛み症状が出た。症状は脚や背中にも広がり入院。今年1月には通学できる状態になったが、割り算ができないなど症状が残っているという。厚生労働省によると、昨年8月末の時点で、全国で

接種した延べ663万5千人のうち956人に副反応が起きているという。失神が多いが「四肢の運動能力

低下「歩行不能」などで未回復の例もあり、副反応の発生率はインフルエンザワクチンの10倍程度という。杉並区は10年7月、子宮頸がんワクチンの接種を全額無料化。現在は全国1700以上の自治体で、国の補助を受けた接種事業が行われている。国は定期接種を進める閣議決定をしている。
(斎藤智子)

子宮頸がんワクチン副反応 全国被害者連絡会発足へ

子宮頸がんワクチンの予防接種を受けた女子中高生らの一部に重い副反応が出ている問題で、被害者家族らが「全国子宮頸癌ワクチン被害者連絡会」を結成することが17日わかった。開会中の国会で子宮頸がんワクチンを原則無料の「定期接種」として受けられる予防接種法改正案が成立すると、被害が拡大する恐れがあるとして国会に慎重な対応を求める。

子宮頸がんワクチンは、子宮頸がんの7割を占める2種類のウイルスの感染を予防するとして、平成21年12月に市販された。価格は約5万円。子宮頸がんの発症が多いのは20～30代だが、性交渉未経験の10代前半にワクチン接種することで予防効果が上がるとされ、杉並区が中学1年生に「中学入学お祝いワクチン」として全額補助するなど、中央、港、新宿区などで全額補助による接種が広まった。

一方、意識障害、強い痛みなどの重い副反応が表面化。今月7日、杉並区議会で、女子中学生が歩行障害などの重い症状で1年3カ月にわたり通学できなかつ

たことが明らかにされる。練馬区や八王子市、長野県、富山県、名古屋市などから同様の被害報告が寄せられた。17日に日野市内で開いた設立準備会で、「歩行不能などで未回復の例もある。ワクチンの副反応の症状が知られておらず、救済態勢が確立されていない」と指摘する声が相次いだ。設立準備会代表の池田利恵・日野市議は「副反応の発生率は、接種開始前に厚生省が公表した11万人に3例と比べると、昨年8月時点の判明だけで11万人に15・4人になる」とし、25日に記者会見を開き、連絡会を正式に発足させ、国会に慎重な対応を求める。